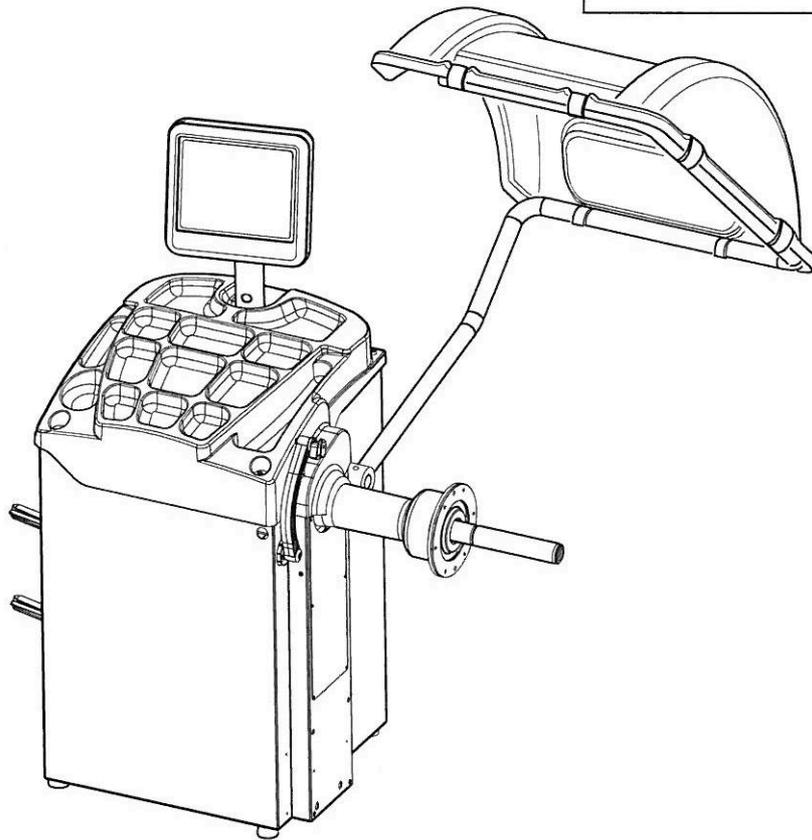


ホイールバルンサー 取扱説明書



FC 295



！警告

製品を使用する前に取扱説明書を注意深く読み
よく理解してから使用してください。

この取扱説明書はいつでも使用できるように大切に保管してください

ごあいさつ

このたびは、コルマックオートマチックホイールバランスをお買い求めいただき誠にありがとうございます。本機は独創的なモーター技術と、最新のテクノロジーによって誕生した、最新の高精度なホイールバランスです。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書を注意深く読み、よく理解してから使用して下さい。取扱説明書の中の注意事項や使用方法をよく読んで、ご使用頂かないと十分能力を発揮しないばかりか人身事故につながりますので、十分理解した上で、正しく使用して下さい。お買い上げの製品や取扱説明書の内容について、ご質問がある場合は、お買い上げ頂きました販売会社までお問い合わせください。尚、この取扱説明書は大切に保管して下さい。

目次

1. 使用目的	4
2. 危険・警告事項	4
3. 輸送および取り扱い	6
4. ホイールバランサーの設置及び組み立	7
5. ディスプレイの各名称	9
6. 本体寸法及び仕様	10
7. ホイールの取り付け	11
8. ホイールバランスの測定（基本的な測定）	12
9. アンバランスの修正	14
10. さまざまなプログラム	15
11. キャリブレーション	22
12. 定期点検・保守	23
13. ディスプレイメッセージ	23

1. 使用目的

本機は「普通乗用車・軽自動車・四輪駆動車・ライトトラック・モーターサイクル」のタイヤホイールをバランス測定修正用に設計されております。他の用途には使用しないで下さい、測定可能ホイールサイズはリム径8～26インチ、リム幅2～20インチ、ホイール・タイヤ重量65Kgまで、また本機は屋内使用専用です。

！注意

- 本説明書では「ホイール」とは、リムとタイヤの組み合せ品を言います。
- モーターサイクル、ライトトラックのホイールの一部は専用アダプター（オプション）を用いて、本機に取り付けアンバランスの追込み測定を行って下さい。

2. 危険・警告事項

安全上の注意事項

ホイール balancer をご使用頂く上での人身事故や物品の破損を防止するための重要な事項が記載されていますので、必ずよく読み理解してから使用してください。

2-1 一般的な安全遵守事項

1. 取扱説明書をよく読み、よく理解してから使用してください。
2. ホイール balancer は使用方法を熟知した人以外は使用しないでください。
3. 始業点検及び定期点検は、取扱説明書の本文に従って必ず実施してください。
4. 使用時に異音発生等、異常が発生した場合には機械の使用を中止し、点検を行ってください。
5. ホイール balancer はホイールのアンバランス測定・修正以外の目的に使用しないでください。
6. 適切な作業衣と防護眼鏡・安全靴を着用してください。

2-2 使用上（作業時）の注意の詳細

1. スタートキー操作前にホイールが確実に固定されていることを確認してください。
2. ウェイトは機械の指示する場所に確実に取付てください。
3. ホイールは緩まないようにクイックロックナットで確実に取付てください。
4. 回転中のホイールには触れたり、手で止めようとしない事。
5. ホイールの回転面には立たない事。
6. ホイール・アダプター等の取付・取外し時には、ハンマー等で強い衝撃を与えないでください、機械の故障の原因となります。
7. 能力以上（65Kg以上）のホイールを取付ないでください。
8. クイックロックナットの取外し時は、リリースレバーを握って一気に緩めず、徐々に緩めて、外してください。

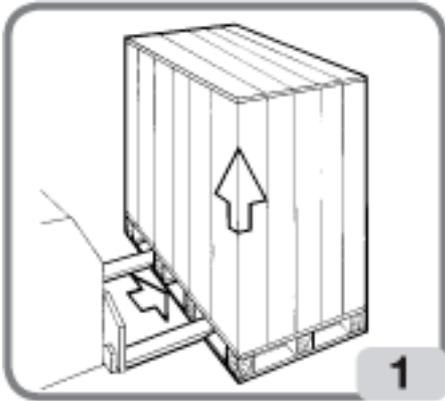
2-3 その他の注意事項

1. メーカーの許可のないまま機械の改造をしないでください。十分な機能が発揮できず事故や機械の破損等につながる恐れがあります。
1. 使用中や点検中に異常を発見した場合には直ちに使用を中止し、異常の部分を修理してください。修理が終わるまで機械を使用しないでください。
2. 本機は耐水使用になっておりません。水洗い・屋外・高湿度での使用はしないでください。また機械の近くで火を使わないで下さい。
3. コンプレッサー圧縮エアによる清掃は行わないでください。
4. 機械の上に乗ったり、座ったりしないでください。
5. 漏電による感電事故防止のため、必ずアース線を接地して使用ください。

2-4 保守点検上の注意

1. 作業中の感電事故防止のため、元電源を切っておいてください！
※ 感電による死亡または重傷の危険があります。

3. 輸送および取り扱い

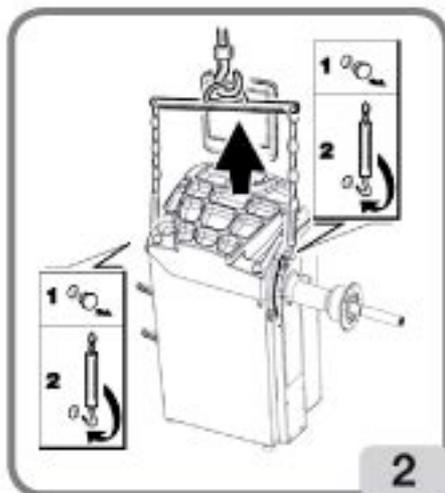


バランスはダンボール1箱で納品されます。

ダンボール箱を開梱しない状態で据付場所までパレットリフト・台車などで運んで下さい。

注意

バランスの箱の上に他の荷物を積み重ねないで下さい。



バランスを吊り上げる時は図の位置にフックをかけて吊り上げて下さい。

注意

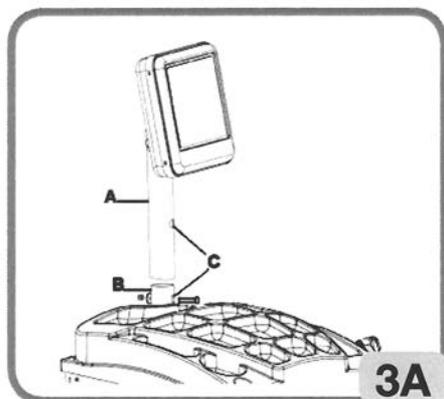
本体・シャフト・フランジには絶対に強い衝撃を加えないで下さい、故障の原因となります。



ハンドパレットなどで移動させる時は本体の中心を持ち上げて下さい。

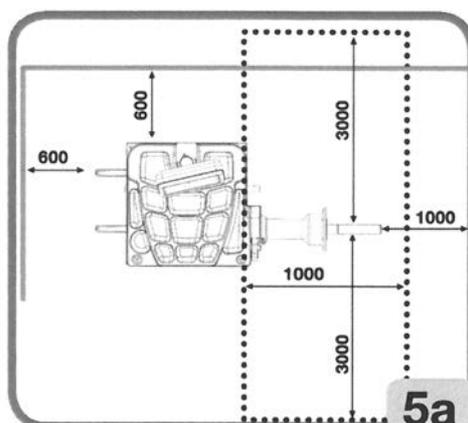
4.ホイールバランスの設置及び組み立て

4-1 ホイルバランスの組み立て



ディスプレイの取り付け（図 3A）
ディスプレイを左図のように取り付けます、ボルト・ナットで固定してください

4-2 ホイルバランスの設置及び位



置決め本体を設置する場所は水平なコンクリート土間の上で、左図を参考に壁からのクリアランス（最低）を確保出来る位置に設置して、本体をコンクリートアンカー3本で固定して下さい。

注意 本体は必ず水平に設置して下さい、また本体を手で押してガタがある様ならばシム板（鉄板）などで床面と本体の狭間を調整して下さい。

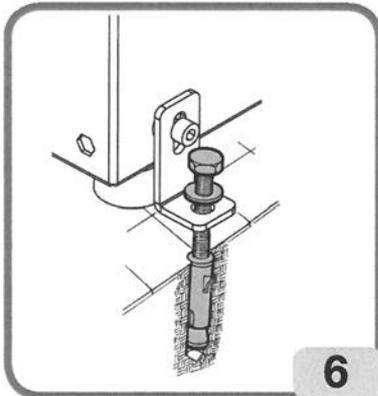
注意 本機は屋内専用です、屋外には絶対に設置しないで下さい、また屋内でも水蒸気・湿気・結露が有る場所には設置しないで下さい。故障の原因となります。現場で以下の条件が保障されている事を確認して下さい。

相対湿度 30～95%（結露なし）

周囲温度範囲 0℃～+45℃

注意 本機を爆発の可能性のある雰囲気の中で操作してはなりません

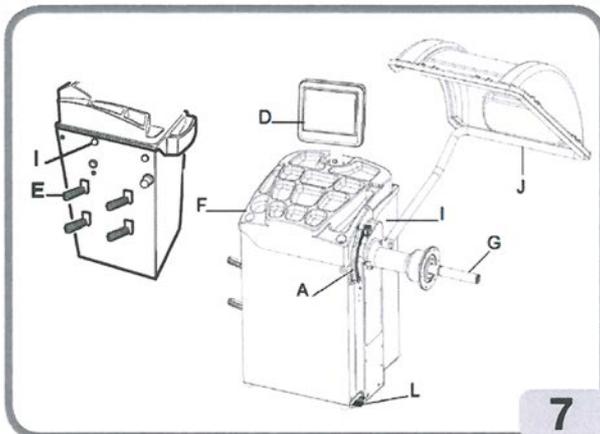
4-3 アンカー固定



バランスの位置が決まったならばコンクリートアンカー（M8）で土間にバランスを固定して下さい。

固定は本体3箇所のL型金具を利用して下さい。

4-4 外観名称及び組み立て



- A ディスタンスゲージ
- D ディ스플레이パネル
- E テーパーコーンホルダー
- F ウェイトトレイ
- G ホイール取り付けシャフト
- I 吊り上げ用穴
- J ホイールガード（オプション）本機には付きません

-ホイール取り付けシャフトは付属の六角レンチを使って取り付けて下さい。

アドバイス

ホイール取り付けシャフト先端の六角頭ボルトを一杯にねじ込んで、手で軽く叩いて締めて下さい、通常回転する事で締まる方向の為、緩む事はありません。

4-5 電源の接続

警告

漏電による重傷事故を防止するために、必ずアース線を設置して下さい。電気工事は専門の電気工事業者にご依頼下さい。

●本機は単層 200V 電源で作動します、配線中の緑/黄の配線はアースです。

1.電気の接続は過負荷によるトラブル防止の為、安全装置（ブレーカ・ヒューズ等）を通して接続して下さい。

2.機械の消費電力は定格 100Wです

3.接触不良によるトラブル防止の為、配線の接続は確実に行って下さい。

アドバイス

本機は単相電源の為、タイヤチェンジャーの様にモーターの回転方向は有りません。(必ず正転します)

！注意

配線を延長する場合は適切な容量の物を使って下さい。

他の機器（コンプレッサー）などと併設する場合には専用のブレーカーを使って他の機器のモーター起動時などに電圧降下しない様に接続して下さい。

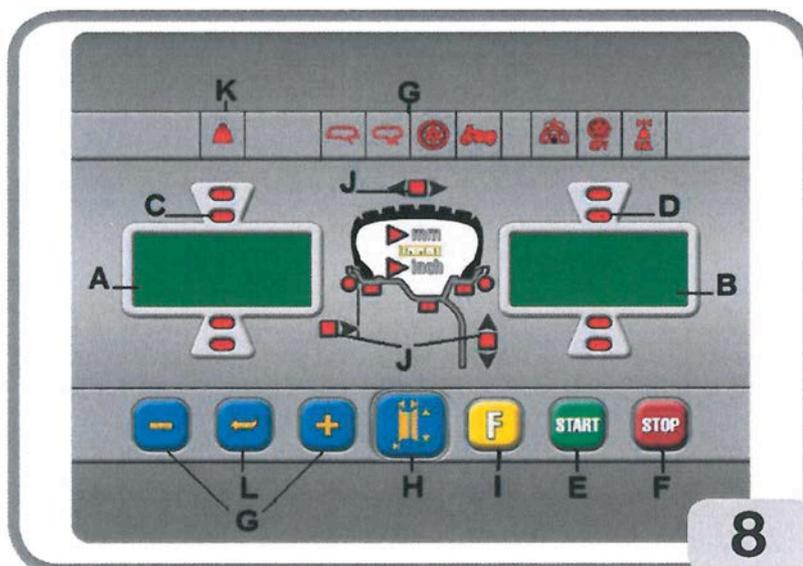
！注意

長期間バルancerを使用しない場合は電源スイッチを切り、コンセントを抜くか、ブレーカーを落として下さい。

！注意

工場周辺へ落雷の恐れが有る場合などは機械のトラブル防止の為、事前にコンセントを抜くなどして下さい。その際アース線も外して下さい。

5 ディスプレイの各名称



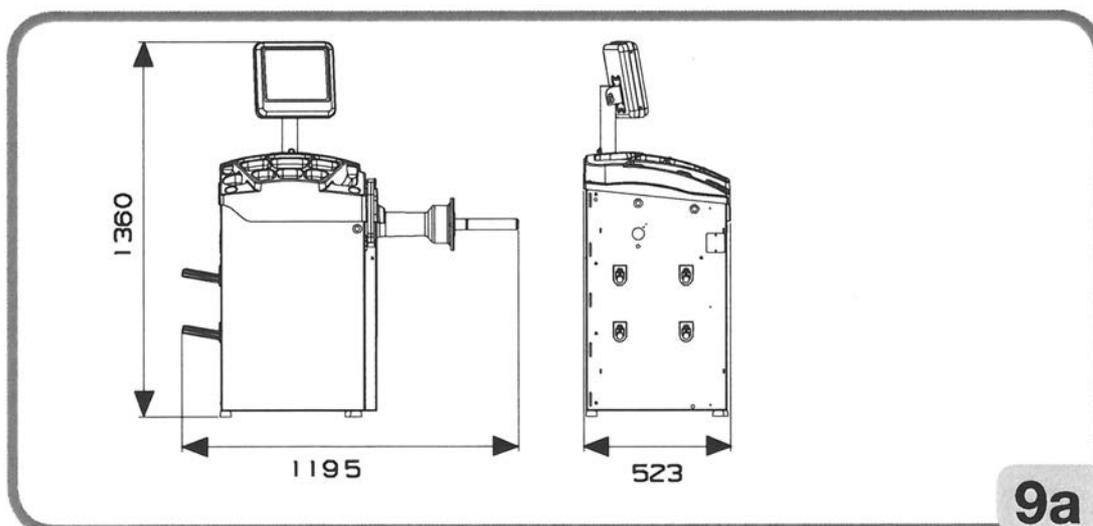
A 内側ディスプレイ

B 外側ディスプレイ

- C 内側ポジションLED D 外側ポジションLED
 E スタートボタン F ストップボタン
 G プラス・マイナスボタン H ホイールサイズ入力ボタン
 I ファンクションボタン J ホイールサイズ位置表示LED
 K 1/5グラム切り替え表示 L 実行ボタン

6 本体寸法及び仕様

6-1 本体寸法 (図 9a)



6-2 仕様

F C 295 仕様

電源電圧	A C 200V 50/60Hz
消費電力	100W
定格電流	0.5A
回転数	90rpm
測定時間	約7秒
シャフト径	φ40mm
測定可能リム幅	1.5~20インチ (オフセットによる)
測定可能リム径	8~35インチ
最大ホイール重量	70Kg (タイヤを含む)
ホイール取付フランジ機構	フロントコーン・バックコーン方式
測定方式	2面同時測定方式
測定モード	1/5g切り替え
ブレーキ方式	測定終了時自動ブレーキ

ウエイト量	デジタル表示
ウエイト取付位置	L E D表示
条件入力	リム径、リム幅、ディスタンス（キー手動入力）
本体重量	74K g（アクセサリを除く）
使用温度	0～45℃

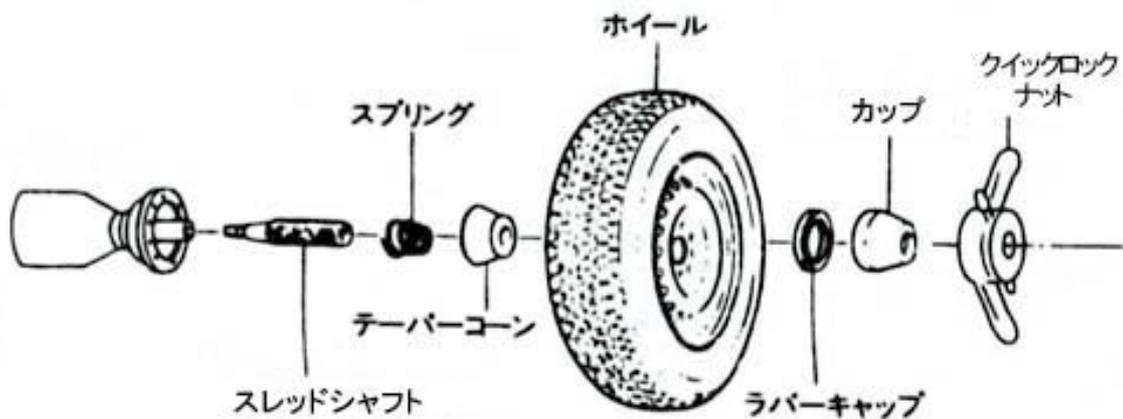
7 ホイールの取付け

本機（バランサー）へのホイールの取付はバックコーン方式とフロントコーン方式の2通りの方法が可能です。

●バックコーン方式での取付

1.スプリング（本機ではフランジに内臓されています）→2.テーパコーン

- 3.ホイール → 4..ラバーキャップ → 5.カップ →
→ 6.クイックロックナット



※ テーパーコーンはホイールセンターボア径に合った物を使用して下さい。

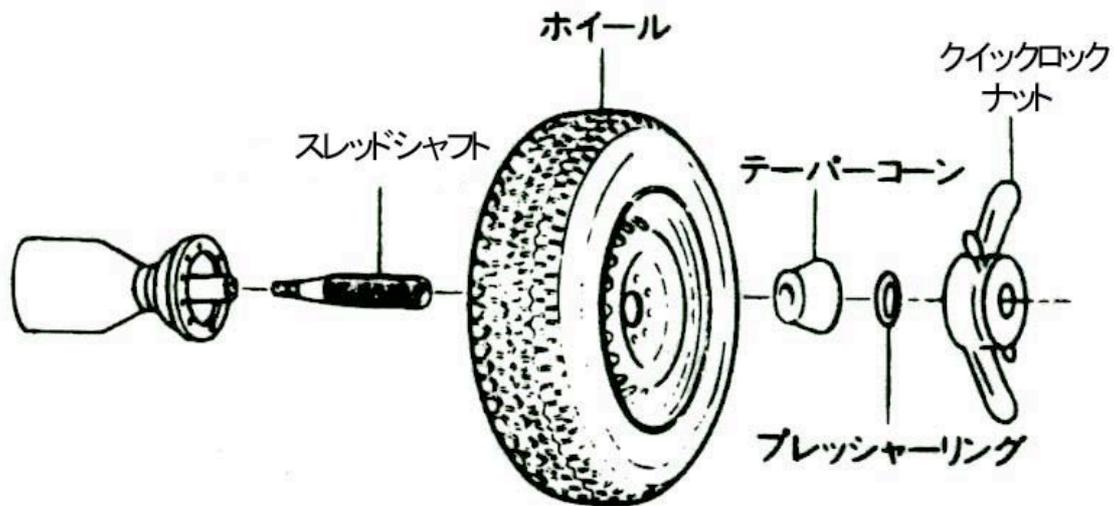
※ ホイールのフランジが本機のホイールフランジに充分密着するまでクイックロックナットを締め付けて下さい。

7-1 フロントコーン方式での取付

- 1.ホイール→ 2.テーパコーン→ 3.プレッシャーリング→
- 4.クイックロックナット

アドバイス

- ホイールのボア径とテーパコーンが適合していないとホイールが傾いて取付けられ、測定精度が悪くなりますので注意して下さい
- ホイールを balancer に取付ける際、タイヤを回しながらロックナットを締めこむことにより一層正確に芯が出ます。



8 ホイールバランスの測定（基本的な測定）

8-1 電源投入

balancer にホイールを取り付けたならば本体背面の電源スイッチを ON にして下さい。

電源を投入したならば表示ディスプレイが全て点滅したのち表示部左右にゼロが表示されます、電源を入れた状態ではスタンダードモードとなっております。

8-2 ホイールデータの入力

本機は測定前にホイールの幅、直径、距離（balancer からリムの距離）をホイールのデータとしてキーボードにより手動入力します

- リム幅の入力

まずはじめに左のホイールサイズ入力キーを押します
そうすると左側表示に L r、右側表示に 5.5 を表示してホ



ホイールサイズ位置表示LED (J) のリム幅部分が点灯します、これはリム幅 5.5 インチを意味します、プラス/マイナスキーを操作して取付けたホイールのリム幅に合わせます

注意

入力時に実行キーを押すと入力単位がインチとミリに切り替わりますので間違わないようにご注意ください

● リム径の入力

次にリム幅データがOKならばもう一度上記のホイールサイズ入力キーを押します、そうすると左側表示に d1、右側表示に 14.0 を表示してホイールサイズ位置表示LED (J) のリム径部分が点灯します。

これはホイールの直径 14 インチを意味します、プラス/マイナスキーを操作して取付けたホイールのリム径に合わせます。

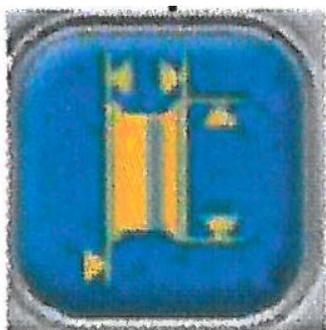
注意

入力時に実行キーを押すと入力単位がインチとミリに切り替わりますので間違わないようにご注意ください

● ディスタンスの入力 (本体からリム内側の距離)

次にリム径がOKならばもう一度ホイールサイズ入力キーを押します、そうすると左側表示に d、右側表示に 150 を表示してホイールサイズ位置表示LED (J) のディスタンス部分が点灯します。これはディスタンス 150mm を意味します、取り付けたホイールのディスタンスを入力します。本体右側面のディスタンスゲージを取り出し図 10 の要領でリムの端にあてます、その時のゲージ数値を読み取って下さい。

プラス/マイナスキーを操作して取付けたホイールのディスタンスに合わせます



8-3 ホイールバランスの測定

ホイールサイズを全て入力したならばキー (I) の F ボタンを押します、表示左右に 0-0 を表示します、次にホイールを回転 (スピン) させてアンバランスの測定を行います。

本体左側面のスピンボタンを左手で押しながら右手でスタートボタンを約 7 秒間押し続けます、ホイールがスピンしながら

アンバランスを測定します。約7秒で自動ブレーキがかかり停止してアンバランス量を表示します。

注意

スピンドットボタンとスタートボタンは測定が終わるまで押し続けて下さい、途中で手を離すと測定は途中で中断してディスプレイには左側A、右側SE Pと表示されて測定エラーを意味します。もう一度測定をやりなおして下さい。

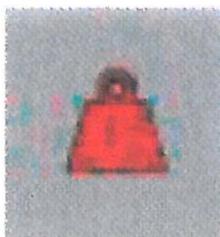
※ 左側スピンドットボタンとスタートボタンを同時に押えてスピンする事でタイヤの延長線上にオペレーターを立てさせないので、小石などの飛散によるケガを事前に防止させる安全対策の構造です。

アドバイス



表示されるアンバランスの数値は通常5グラム単位で表示されます、数値が表示されている時にFキーを押すと1グラム単位表示に切り替わります、もう一度Fキーを押すと5グラム単位に戻ります。バランスウエイトまた作業性を考慮して通常は5グラムモードで測定して下さい。

(Fキーを5秒長押しするとオンスに切り替わります)



5グラム表示の時にはディスプレイ左上にある左図の分銅ランプ

ランプが点灯します。

9 アンバランスの修正

1.測定後アンバランスが表示されたならば修正作業を行います。

左側、右側ディスプレイそれぞれに数字が表示されたならばホイールのインナー、アウターのアンバランス量を意味します。

2.ポジションLEDの表示に従ってタイヤをゆっくりと手で回転させます。

ゆっくりと回転させているとピーピーと音を発し、ポジションLED

を全て点灯させてオペレーターにウエイト取り付け位置を知らせます。

3.例えばアウター側に 20 g のアンバランスがある場合にはディスプレイには

左側に H.12 右側に 20 と表示します。これはアウター側リムの 12 時に位置に 20 g のウエイトを付ける事を意味します。

4.機械の指示にしたがって適切な修正ウエイトを 12 時の位置に正しく取り付けして下さい。

5.確認の為、ウエイト取付け後もう一度ホイールをスピンさせて測定しゼロを表示すると修正作業は完了です。

！アドバイス

特にアンバランスが大きいホイールの場合やウエイトを広い（長く）範囲で取付けた場合などは、取り付け位置におけるわずかな誤差でも残留アンバランスを生じる傾向がありますので注意して下さい。

10 さまざまなプログラム

本機はさまざまな種類のホイールに対応するためにいくつかのプログラムを備えています。電源を入れた状態ではスタンダードモードですがプラスキーを押す事でプログラムを変更して作業する事ができます、表示インジケータ 8 の (G) が順番に切り替わります。切り替え順序は以下のとおりです。

スタンダードモード → スタチックモード → アルミモード → バイクモード

→ スプリットモード → OPT → キャリブレーションモード

！アドバイス

これらのプログラムはダイナミックで測定後でも切り替える事が可能ですので測定前に必ず設定する必要はありません。

1 スタンダードモード (ダイナミック)

電源を入れた状態はこのモードとなります、ホイールの両端にウエイトを取り付ける、スチールホイールやアルミホイールのクリップウエイト（打ち込み）に対応します。リムの内側と外側（ダイナミック）の測定をします。

2 スタチックモード

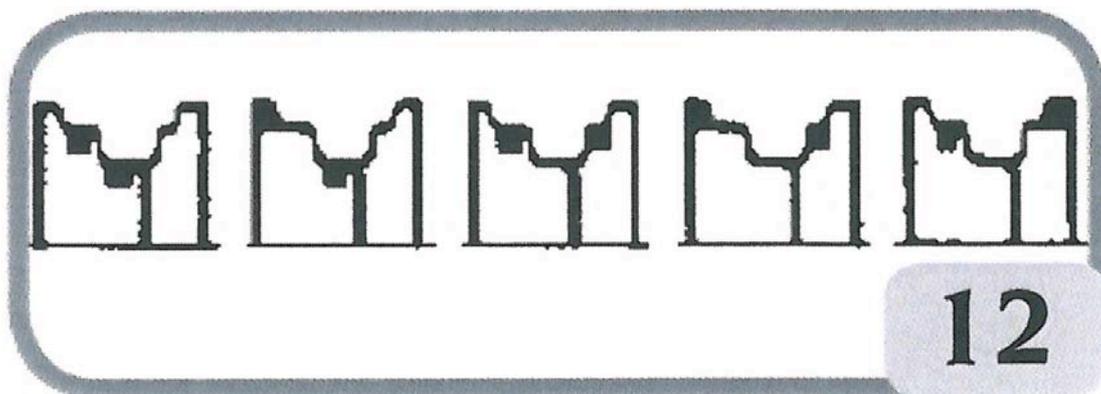
修正ウエイトをホイールの中心（センター）だけに付けてアンバランスを修正したい時に使います。プラスキーを押して2番目のスタチックに合わせて次に実行キー（L）を押します。 balanサーは1点だけのアンバランスを表示します。

3 アルミホイールモード

3-1 本機にはさまざまなアルミホイールに対応する為にいくつかのプログラムを備えています、貼り付けウエイトなどを使用したい場合はアルミホイールモードを実行して下さい。プラスキーを押して3番目のアルミホイールに合わせて次に実行キー（L）を押します。

●そうすると左側表示にALU、右側に1Pと表示します、もう一度実行キーを押すとALU、2Pと表示します。これはアルミスペシャルモード1と2を意味します。

●さらに実行キーを押すとALU1→ALU2→ALU3→ALU4→ALU5と変化してそれに応じてウエイト取り付け位置が下記（図12）の様に変化してディスプレイのウエイト取り付け位置LEDが点灯します。



●ALU1～5の中で最適なウエイト位置を選択してバランス修正を行って下さい。

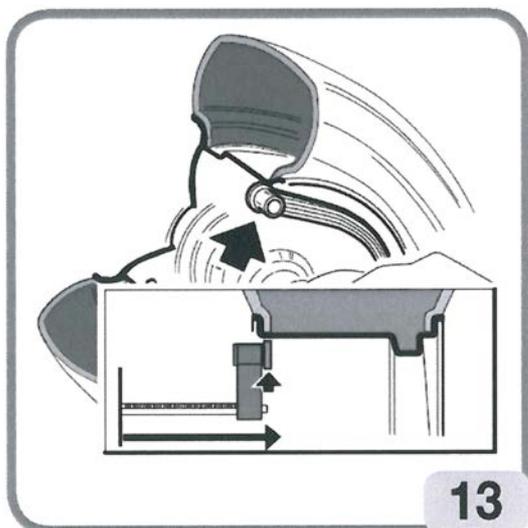
3-2 アルミスペシャルモード

本機にはより正確な修正作業を行うためアルミスペシャルモードを備えています、これはウエイトの取り付け位置を正確に設定して取り付けウエイトを最小限にする事ができます。これはイン/アウトのウエイト位置を入力して正確な必要ウエイトを計算する方法です、手順は以下になります。

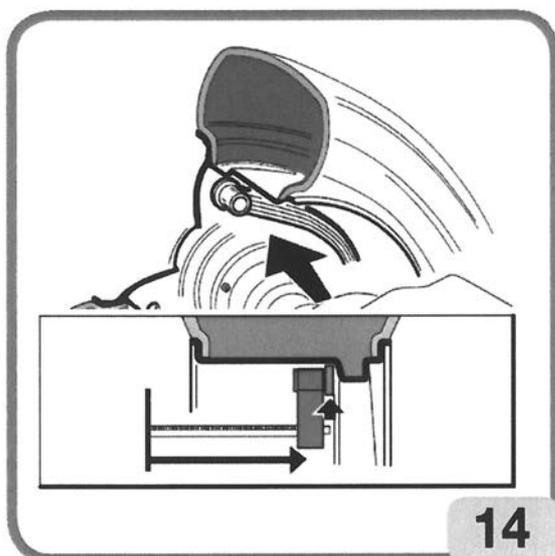
●ALU1P

ALU1Pは内側貼り付け、外側貼り付けのウエイト時に選択します。

ホイールサイズデータ入力キーを押します。
左側表示に d 1 を表示します、右側には（図 13）の様に貼り付けウエイトの位置にゲージを合わせて、その数値を入力します。



※もう一度ホイールサイズデータ入力キーを押します。
左側に d 2 を表示したならば、右側には（図 14）の様に貼り付けウエイトの位置にゲージを合わせて、その数値を入力します。



※次にもう一度ホイールサイズデータ入力キーを押します。
リム径をサイズに合わせてFキーを押すと入力は終わりです。
通常どおりホイールをスピンさせて測定して下さい。

●ALU2P

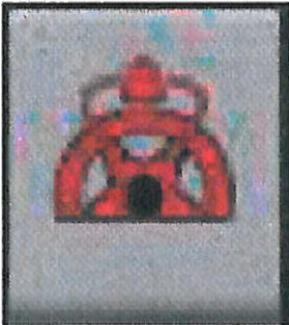
ALU2Pは内側打ち付け、外側貼り付けのウエイト時に選択します。
ALU1Pと同様にホイールサイズデータをそれぞれに合わせて入力した後に測定して下さい。

10-4 スプリット(ウエイト隠しモード)

本機はアルミホイールなどに付けるウエイトを2箇所分散させてスポークの裏に隠す事ができます。

●アルミモード 1P、2Pで測定後外側ウエイトがスポークの間に貼り付けなければならない目立つ場合にそのウエイトを2箇所分散させて2本のスポークの裏に隠します。※このスプリットモードは3本以上(作用角120度以下)のホイールに適用します。

4-1



測定後外側ウエイトが表示されたならば、プラスキーを押して5番目(右図)のに合わせて次に実行キー(L)を押します。

すると左表示IN、右側H.12 -1-を表示します。

注意

もしも左右の表示部にNO、NOが表示されるようならば手順が間違っているかスプリットの必要が有り

ません。

4-2

次にゆっくりとタイヤを手でまわして実際のウエイト貼り付け位置を探します。

機械が指示した12時方向の位置にチョークでタイヤにマーキングをします。

4-3

ウエイト位置をマーキングしたならばタイヤを手で回してそのマークに一番近いスポーク(スポーク1)を12時の位置に合わせます、合わせたならば実行キーを押します。すると左表示IN、右側H.12 -2-を表示します。

4-4

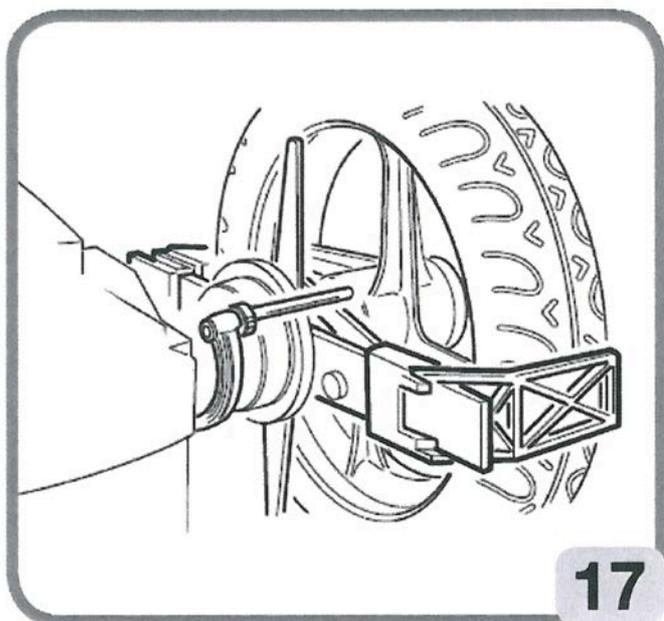
上記が表示したならば次にまたタイヤを手で回してチョークに2番目に近い

スポーク(スポーク2)を12時の位置に合わせます、合わせたならば実行キーを押します。するとスポーク1と2の部分にそれぞれのウエイト量

が表示されますので機械の指示に従ってウェイトを取り付けて下さい。

5 バイクモード

5-1 バイクホイールの測定を行う場合はまずはじめに自動車用のスレッドシャフトを取り外した後、下図の様に専用のバイクアダプターを装着してバイクホイールを取り付けます。

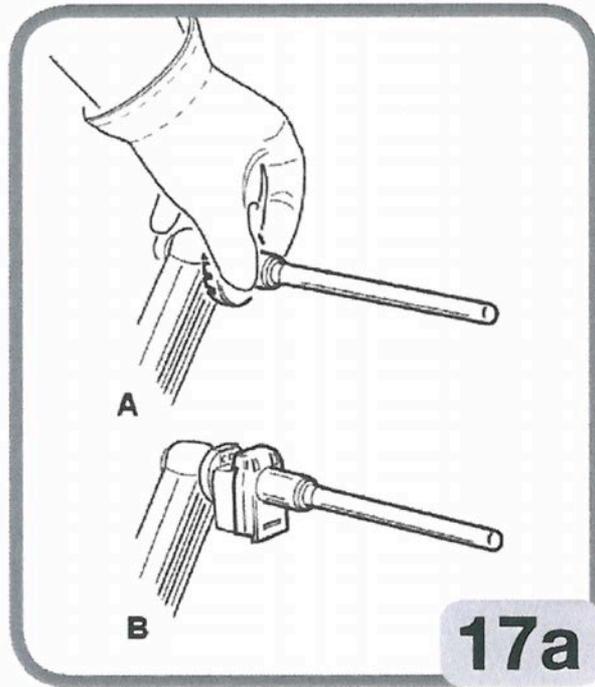


5-2 バイクホイールを装着したならば、プラスキーを押して4番目のバイクホイール（下図）に合わせて次に実行キー（L）を押します。



リム幅とリム径のホイールサイズデータを入力して下さい。

5-3 ディスタンスを入力する時はバイクアダプターに付属のエクステンションでディスタンスゲージに延長して（下図 17a）数値を読み取って下



さい。

6 バイクアルミモード(アルミホイール)

バイクのアルミホイールを測定したい時はバイクモードを選択した後、もう一度、実行キーを押します。そうするとアルミホイールに対応した貼り付けウエイトを表示します。

7 バイクモードスプリットモード

バイクホイールでスポークが大きいなどでウエイトを取り付けられない時はスプリットモード

を選択します。1点のウエイトを機械が最適なウエイト量を2点にそれぞれ振り分けます。

7-1 バイクモードで測定後アウター/インナーそれぞれのウエイトポジション(12時方向)にホイールを手で回転させて合わせます、スプリットのインジケータがフラッシュしたならば実行キーを押します。

7-2 ディスプレイには左側に1-1 右側に2を表示します

プラス又はマイナスキーで右側の数値をスポークの大きさを合わせます

- ・ 1 = 小さいスポーク
- ・ 2 = 中のスポーク
- ・ 3 = 大きいスポーク

7-3 スポークの大きさに数値を合わせたならば実行キーを押します、そうすると機械はスポークの大きさに応じた最適なウエイト量をスポークの量サイドに振り分けて表示します。アウターとインナーそれぞれに以上の作業を行います

8 最適化プログラム(OPT)

この手順はバランス修正後ホイールを車に取り付けたのちまだ僅かに振動が出たりウエイト量が極端に多い場合などに実行します。タイヤとホイールを最適な位置にする事でウエイトを最小限に抑えます。

8-1 最終スピンの後にプラスキーを押してOPTを選択して実行キーを押します。

8-2 実行キーを押した後にディスプレイにYES OPTが表示された

ならばOPTプログラムを進めます。もしもNO OPTを表示したならばOPTを行わず通常のダイナミック測定に戻って修正して下さい。

8-3 左ディスプレイに”OP.1”を表示したならばホイールのバルブを12時の方向に合わせて実行キーを押します。

8-4 ホイールを手で回してインジケーターに従って表示する位置に合わせます。外側タイヤの12時方向にチョークで1本線のマークをします。

8-5 マークしたならば実行キーを押します、表示部にOPT2を表示します、次にホイールを機械から外します。

8-6 取り外したホイールのタイヤビードを落としてタイヤだけを回転させて前もってタイヤにマークした位置をホイールのバルブの位置に合わせます。

8-7 タイヤにエアーを入れて膨らませます、もう一度機械にホイールを取り付けます。タイヤを手で回して12時の位置にバルブを合わせたら実行キーを押します。

8-8 次にOPT GOを表示したならば次にスタートキーを押してホイールをスピンさせます。スピンが止まったならばOPT3を表示します。

8-9 ホイールを手で回してインジケーターに従って表示する位置に合わせます。外側タイヤの12時方向にチョークで2本線のマークをします。

8-10 もう一度機械からホイールを取り外して、タイヤの2本チョークマークとバルブの位置を合わせます。もう一度機械に取り付けて実行キーを押します。

次にもう一度スピンさせてこの作業を終了します。最終的に表示されたウエイト量に応じて修正して下さい。もしも“E6”を表示したならば手順が違いますのでやり直して下さい。

11 キャリブレーション

本機は高精度な測定結果を長期間維持できるように設計されていますが、繰り返しの使用で精度が狂ってきた時は、簡単な操作で再調整が行える自動校正機能が装備されています。

またキャリブレーションは以下の時にも実行して下さい。

- 機械を移設した時や測定精度が悪くなった時。
- ディスプレイにE1が表示された時。

11-1 キャリブレーション手順

通常よく測定する標準的なサイズの組み立て精度が良好で、曲がりなどが

ないスチールホイールを機械に取り付けます。

(アンバランスが多いホイールは使わないで下さい)

11-2



ホイールを取り付けたならば通常どおりホイールサイズデータを入力します、Fキーを押した後プラスキーを押して左図のキャリブレーション (CAL) に合わせて次に実行キー (L) を押します。

11-3

するとディスプレイ部に左側CAL、右側にGOを表示したならば一回目のスピンをを行います。

11-4

スピスが止まったならばタイヤを手でゆっくりと回して 100 グラムを表示する位置に合わせます、内側リムの 12 時方向に 100 グラムのウエイトを付けます。

11-5

内側にウエイトを取り付けたならば次に 2 回目のスピンをを行います。スピスが止まったら 100 グラムのウエイトを外して、タイヤを手で回しながら 100 グラムを表示する位置に合わせます。外側リムの 12 時方向に 100 グラムのウエイトを取り付けます。

11-6

外側にウエイトを取り付けたならば次に 3 回目のスピンをを行います。スピスが止まったならば(End CAL)と表示されたならば校正は終了です、100 グラムのウエイトを取り外して下さい。

<注意>

もしもディスプレイにE2を表示したならば校正が完了していません、手順が違うか校正が正常に行われていませんのでもう一度はじめからやり直して下さい。

12.定期点検・保守

安全・かつ正確な御使用をして頂くために定期点検を実施して下さい。

- 分解作業は、内部に電気回路がありますので、必ず主電源を切って行って下さい。

- 点検の際、外したウエイトトレイのねじはしっかり締めて下さい。
- 長期間バランスーを使用しない時は本体全面にカバーなどを掛けて埃などがかからない様にして下さい。
- 高精度な測定結果を得る為に、定期的に自動校正（キャリブレーション）を行って下さい。
- 内部に埃などが詰まらない様に注意して下さい。
- 接点・コンセントなどは接触不良にならない様、注意して下さい。

13. ディスプレイメッセージ

機械が表示するメッセージの意味は下記の通りです。

-A- 注意メッセージ

A 3 ホイールキャリブレーションに適していません、標準的なホイールに変えて試して下さい。

A 5 アルミプログラムのホイールサイズデータの入力が入りが正しくありません。

A 7 機械はもう一度スピンを要求します

A23 アルミプログラムのデータを正しく入力して下さい。

A26 ホイールのセンターポジション不可

A41 スタートボタンと同時に左側面の回転ボタンを同時に 10 秒以上押し続けて下さい。

AStp ホイールがをしっかりと固定して回転させて下さい。

-E- エラーメッセージ

E1 キャリブレーションエラー、キャリブレーションをやり直して下さい。

E2 キャリブレーションエラー、キャリブレーションをやり直して下さい。

E6 マッチングプログラムをはじめからやり直してください。

E16 モーターが加熱しています、スイッチを切って電源を落とししばらく経ってから作業して下さい。

E27 ブレーキタイムオーバー

E28 エンコーダーエラー

輸入発売元

KIKAIYA 株式会社コバヤシ電装
〒729-0104 広島県福山市松永町4-21-44
<http://www.kikaiya.com>
e-mail info@kikaiya.com
TEL 084-934-6537 FAX084-934-6582

